

令和
8
年度版

作文の友 5

～書くこと 大好き～



愛知教育文化振興会
三河教育研究会

5	年		組	名前	
----------	---	--	---	----	--



原稿用紙の
正しい書き方

原稿用紙の使い方・書き直し方

題は二、三マスあける

三行目から

書き出しは一マスあける

ただし
「から書き出すとき
は一マスあけない

話しことば・会話は
行をかえる

話しことば・会話
二行目は一マス

会話文の次の行から
新しく文が始まると
きは一マス下げる

話の内容が変わる
ときも一マス下げる

書き直すときの記号
つけくわえる
書きかえる
とる
行をかえる

一マスあける

「。」一マス

「。」は
同じマスに
書く

いちばん下の「。」はマスの中に入れる

さいごの一マスあける

ず	と	小	さい	い	こ	ろ	に	お	兄	ち	ゃ	ん	と	お	姉	ち
の	ふ	も	と													
に	じ	の	ふ	も	と											
と	、	お	ん	で	い	る	と	、	「	あ	、	に	じ	だ	」	。
「	に	い	た	ね	。ど	う	し	て	い	ろ	ん	な	色	が		
あ	の	か	ふ	し	た	ね	。ど	う	し	て	い	ろ	ん	な	色	が
お	の	か	ふ	し	た	ね	。ど	う	し	て	い	ろ	ん	な	色	が
ん	が	聞	こ	ま	し	た	が	、	わ	か	り	ま	せ	ん		
主	人	が	さ	が	し	に	行	く								

先生と保護者の皆様へ

- 教科書との関連を図っています。
 - 児童が自分の力で文章が書けるようになることを意図して編集しています。
 - 参考作品は「みかわの子」や地域の読書感想文集に掲載されているものを使っています。
- なお、掲載作品の学校名、地区名については執筆時の名前で表記されています。

令和8年度版 作文 5年

編集 「作文の友」編集委員会
三河教育研究会
刊行 公益財団法人愛知教育文化振興会
〒444-0868 岡崎市明大寺町字馬場東170番地1
電話 0564-51-4819
印刷 あいち印刷株式会社

※無断で複写・複製することを禁じます。

いき 地域のみにょくを 伝えよう

すじ
○筋道を立てて書きましょう

★言葉の力 筋道を立てて書くには

- ・読み手に伝えたいことの中心を考え、情報を整理する。
- ・調べて分かった事実と、自分の考えを区別して書く。
- ・「始め・中・終わり」など、伝える情報に合った文章の構成を考える。
- ・主に「中」の文章のまとまりをくふうする。

■学習の流れ

- ① 題材について情報を集めよう。
- ② 記事の構成を考
- ③ タウン誌の記事を書
- ④ 感想を伝え合おう。

文章の筋道を立てながら、記事を書くようにしよう。

作文の友

～書くこと 大好き～

5



目次

1	地域のみにょくを伝えよう……………2
2	五年生の本だな……………6
3	心の動きを短歌で表そう……………12
4	和の文化を発信しよう……………16
	・目的に応じて情報を関係づけよう
	どう考える？ もしもの技術……………22
	・反対意見を予想して書きましょう

一 題材について調べて情報を整理しよう。
次の例を参考に、どんなことをタウン誌の記事に書くかを考えましょう。

〈整理ノート〉

■ 題材の例

- ・ 古くからある名所
- ・ 新しい店や建物
- ・ みりよくのある人物
- ・ 地域特有のめずらしいもの

この他にも、記事にしたい題材を書いてみましょう。

■ 調べて分かった事実や自分の考えなど、情報を整理して書きましょう。

二 記事の構成を考えよう。

整理した情報をもとに、記事の構成メモを作りました。この構成メモをもとに、中心を意識して文章を書きましょう。分かりやすく伝えるために、各ポイントについて、具体的な事実や自分の考えを記入しよう。

■ 構成メモ

ポイント
調べて分かった事実から、自分の考えを整理しよう。
ポイント
調べて分かった事実から、自分の考えを整理しよう。

始め	どう入
中	地いきのみりよく①
	(事実)
	(考え)
	地いきのみりよく②
	(事実)
	(考え)
中	地いきのみりよく③
	(事実)
	(考え)
終わり	まとめ

三 タウン誌の記事を書こう。

三は後ろの29ページと30ページを使いましょう。

四 感想を伝え合おう。

完成したタウン誌の記事を友達と読み合い、説明が分かりやすいと感じたところや、資料がうまく活用できていると感じたところなどを伝え合います。

五 ふり返りを書く。
筋道をたてて説明する。

どのよう

としましたか。

—

(より)

(より)

五年生の本だな

○読書感想文を書きましょう



一度読み返してみよう。心に残った本を選んで、読み返してみよう。

一 菜央子さんの感想文を読んで、書くときのポイントを見つけよう。

次の作品は、『捨てないパン屋の挑戦 しあわせのレシピ』を読んで書いた感想文です。主人公、田村さんの生き方について、菜央子さんがどのように感じとり、どのように書き表したのか、よく読んで調べてみましょう。

「いのち」のバトン

豊田・童子山小 三浦 菜央子

① ある朝、私はゆううつな気持ちで学校に向かった。その日の給食のこんだてに私の大好きなナッツサラダがあった。給食の時間がやってくると、

「ああ、今日もナッツサラでも合わないよ。」

と、つぶやいた。その時の私は、食べ物にナッツアレルギーがあることを、この本『いのち』で知った。宿題で、深く考えたことなかった。

② この本の主人公は、食生活が健康で、環境問題が身近なものだと思える。その田村さん

とはいえ、田村さんは、簡単に「捨てないパン屋」になっただけではない。長い時間をかけて、ようやく「捨てないパン屋」になることができた。食べ物をむだにしないという信念に努力し、考え続けた田村さんは、自分の信念を、すごいと思う。

③ 田村さんは、結果として、食べ物がいちばんの環境問題だということに気づいたのだ。その考えには私もおどろいた。今まで一度も、環境問題がこんなにも身近なものだと思えなかったからだ。その後も田村さんは、環境にやさしい「ほんもののパン」をつくるために、フランスで色々なことを学んだ。そしてやっと、パン職人もお客さんも農家も、みんながしあわせになれるしあわせのレシピを見つけたのだ。田村さんのつくる「ほんもののパン」は、まきを燃やしてつくる。つまり、小麦だけでなく、木の「いのち」も受けつがれているというわけなのだ。田村さんは今、さまざまな「いのち」が宿ったパンを、決して捨てることなく、バトンとしてお客さんに手わたしをしている。

④ 田村さんのパンに限らず、この世の中のどんな食べ物にも、たくさんの「いのち」が宿っているのではないかと私は思った。

○書き出しをくふうしてみましょう。

①② 作者は本に出会う前の自分のすがた（経験）から書き出しています。そして、本の内容や主人公についてしうかいし、そのすばらしさにふれています。ほかにも次のような書き方があります。読み手を引きつける効果的な書き出しを考えましょう。

- ・本を読んだときの気持ち（感動・おどろき・悲しみ）から
- ・登場人物や筆者へのよびかけ・会話文から
- ・本を読むきっかけになったことから
- ・書名や心に残った登場人物のすがたから
- ・本の内容のしうかい（自分が気に入ったところ）から

登場人物の言葉や自分の考えを引用して書く。田村さんは、『いのち』で知った。その後も田村さんは、環境にやさしい「ほんもののパン」をつくるために、フランスで色々なことを学んだ。そしてやっと、パン職人もお客さんも農家も、みんながしあわせになれるしあわせのレシピを見つけたのだ。田村さんのつくる「ほんもののパン」は、まきを燃やしてつくる。つまり、小麦だけでなく、木の「いのち」も受けつがれているというわけなのだ。田村さんは今、さまざまな「いのち」が宿ったパンを、決して捨てることなく、バトンとしてお客さんに手わたしをしている。

- ・具体例・自分の経験談を入れて書く。
- ・本の中に何度も登場する言葉をテーマに決めて書く。
- ・事実（具体例）と自分の感想・意見を区別して書く。

もちろん私の苦手なナッツサラダにも、私の命のかてとなる、たくさんの「いのち」が宿っていたのだ。野菜やナッツを栽培したり、運んだり、調理したりするのにも、たくさんの人手とエネルギーが使われている。そんな多くの愛情をかけられたナッツサラダに、ただ文句を言っていた自分が、なんだかはずかしくなった。食べ物に対して、もっと感謝の気持ちをもたなければならぬ。そう思ったとき、私は、ふと学校みんなが残した給食は、いったいどこへ行くのだろうと気になった。調べてみると、そのまま捨てられていることが分かった。私のおねがぎゅっと痛んだ。

⑤ 食べ残しは、どうしたらいいだろう。一人ひとりの、食べ物に対する意識が変わるために、食べ物には、たくさんの「いのち」が宿っているという。私はみんなに伝えていきたくて世界中の人々が「いのち」のバトンをつなげてほしいと、せに生きら

井出留

二年度版・第5号「いのちの挑戦 しあわせのレシピ」あかね書房

○自分のこれまでの生き方や考え方と比べて、学んだことを書きましよう。

④ 作者は、本の主人公の考えにふれ、自分の苦手なナッツサラダにも「たくさんの『いのち』が宿っている」と気づいたことを書いています。今までの自分を反省する気持ちや、疑問に思ったことを調べて感じた気持ちを素直に表現することで、読み手に作者の考えの変化が伝わります。

○しめくりをくふうして書きましよう。

⑤ 作者は、本から学んだことを『いのちのバトン』という題名につながる表現を用いてまとめています。最後に、自分の願いを力強く書くことで印象的なしめくりになっています。

こんな書



自分の経験と本のテーマをうまくかわらせた感想文

二 メモを取りながら読もう。

心に残った本を選び、次のことについてメモを取りながら

書名

作者名

(1)

この本を選んだわけ、この本を読もうと思ったきっかけ

心の動きを 短歌で表そう

○表現をくふうして短歌を作しましょう

★言葉の力 表現をくふうして短歌を作るために

- ・心の動きや出来事の様子が伝わるように言葉を選ぶ。
- ・何を伝えたいかを考え、より適切な言葉をさがす。
- ・言葉の順序を入れかえたり、言葉の組み合わせを考えたりして、表現をくふうする。

■ 学習の流れ

- ① 材料を集めよう。
- ② 三十一音で表現しよう。
- ③ 表現をくふうして短歌をいよう。
- ④ 感想を伝え合おう。

生活の中で新しい発見を
せんか。その中から、書
表しましょう。

動したりし
心が動いたことはありま
なにも伝え

感想文を書こう

どんな順序で書き進
み合い、感想を伝え合

書き上がった感想文を読

(3)	心に残った場面や言葉
(4)	自分と似て ^に いると思ったこと、ちがうと思ったこと
(5)	自分が思ったこと、考 ^{こと}
(6)	読む前と比べて、ものの見方や考え方が変わったところ

一 材料を集めよう。

生活の中で、心が動いた場面や出来事を思い出し、材料を集めましょう。したこと、見たこと、聞いたことなどをメモに書き出し、そこから連想した言葉をつないで発想を広げましょう。

連想メモを書きましょう。

二 三十一音で表現しよう。

メモしたことの中から題材を選び、発見や感動を五・七・五・七・七の三十一音のリズムで表現しましょう。

音の数え方

- ・かな一字につき一音と数えるのが基本。
- ・「ん」、「ー(のばす音)」、小さい「っ」も一音。
- ・「しゃ」「しゅ」「しょ」などのように、二字で一音となるものがある。

三十一音で表現しましょう。

五 七 五 七

※リズムがあれば、

だわらなくてよい。

三 表現をくふうして短歌を仕上げよう。

作った短歌を声に出して読んだり、友達と読み合ったりして、もっとくふうできそうなどころがないかを考えましょう。

くふうするポイント

- ・心の動きや出来事の様子が伝わるように言葉を選ぶ。
- ・何を伝えたいかを考え、より適切な言葉を選がす。
- ・言葉の順序を入れかえたり、言葉の組み合わせを考えたりして、表現をくふうする。

(例) 妹と観察したよたくさんの

流星群を夜ふかしをして

夜ふかしで流星群を観察だ

あっちもきらりこっちもきらり



「似ている別の言葉の例」

七 七 五 七 五 七 七 七 七

短歌を書き、リズムを確かめよう。

四 感想を伝え合い、ふり返りをしよう。

- (1) できあがった短歌を友達と交かんして読み合い、思いうかぶ場面の様子やおもしろいと感じたところなど、感想を伝え合いましょう。

()				
()				
より ()				
()				
より ()				

- (2) どのように表現をく、して、短歌を、ましたか。

和の文化を 発信しよう

○目的に^{おう}応じて^{じょうほう}情報^{じょうほう}を関係づけましょう

「和の文化を受けつぐ」をテーマに、教科書や教材などから、和の文化について調べ、ポスターにまとめてみましょう。

■学習の流れ

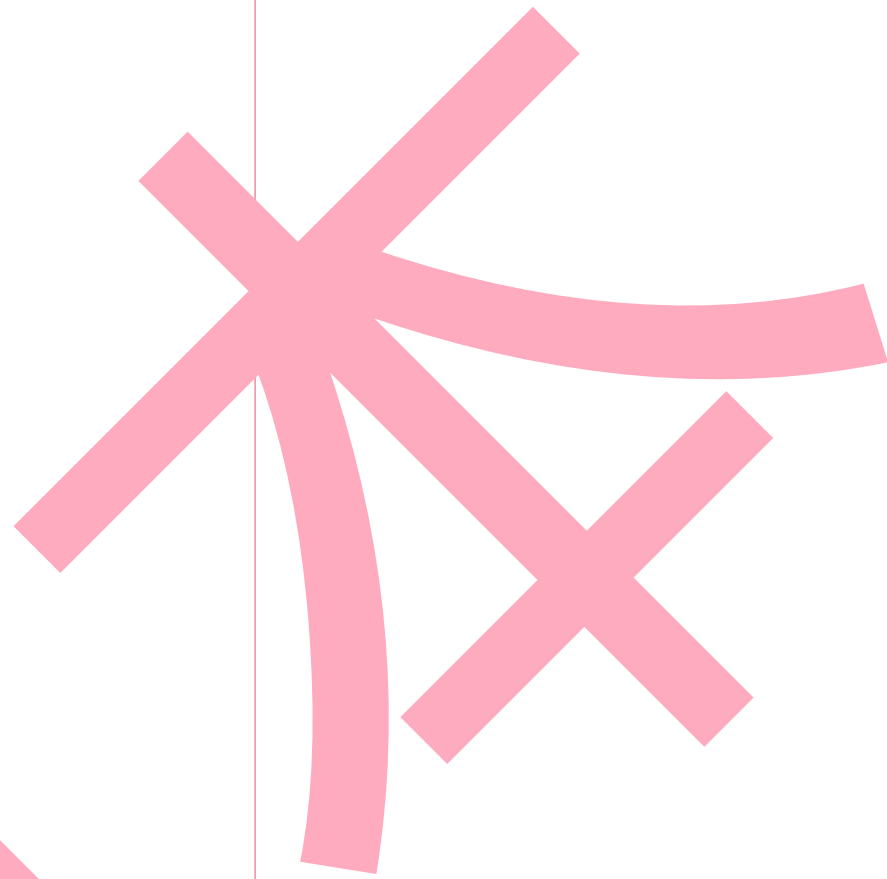
- ① 題材を決めて情報を集めよう。
- ② わり付けを考え、ポスターを作ろう。
- ③ ポスターの解説文^{かい}を書こう。

★言葉の力 目的に^{かく}応じて情報を関係づけるためには

- ・ 何のために伝えるのか、目的を明確にする。
- ・ さまざまな方法で情報を集め、その中から目的に合ったものを選ぶ。
- ・ 文章だけでなく、表やグラフ、写真などの資料を適切に使って表す。
- ・ 文章と図表との関係を考えて、情報を効果的に示す。

一 テーマを決めて情報を集めよう。
各自でポスターのテーマを決めたら、本やインターネットで集めた情報を整理しましょう。そのうえで、ポスターで何が伝えたいのかを考えましょう。

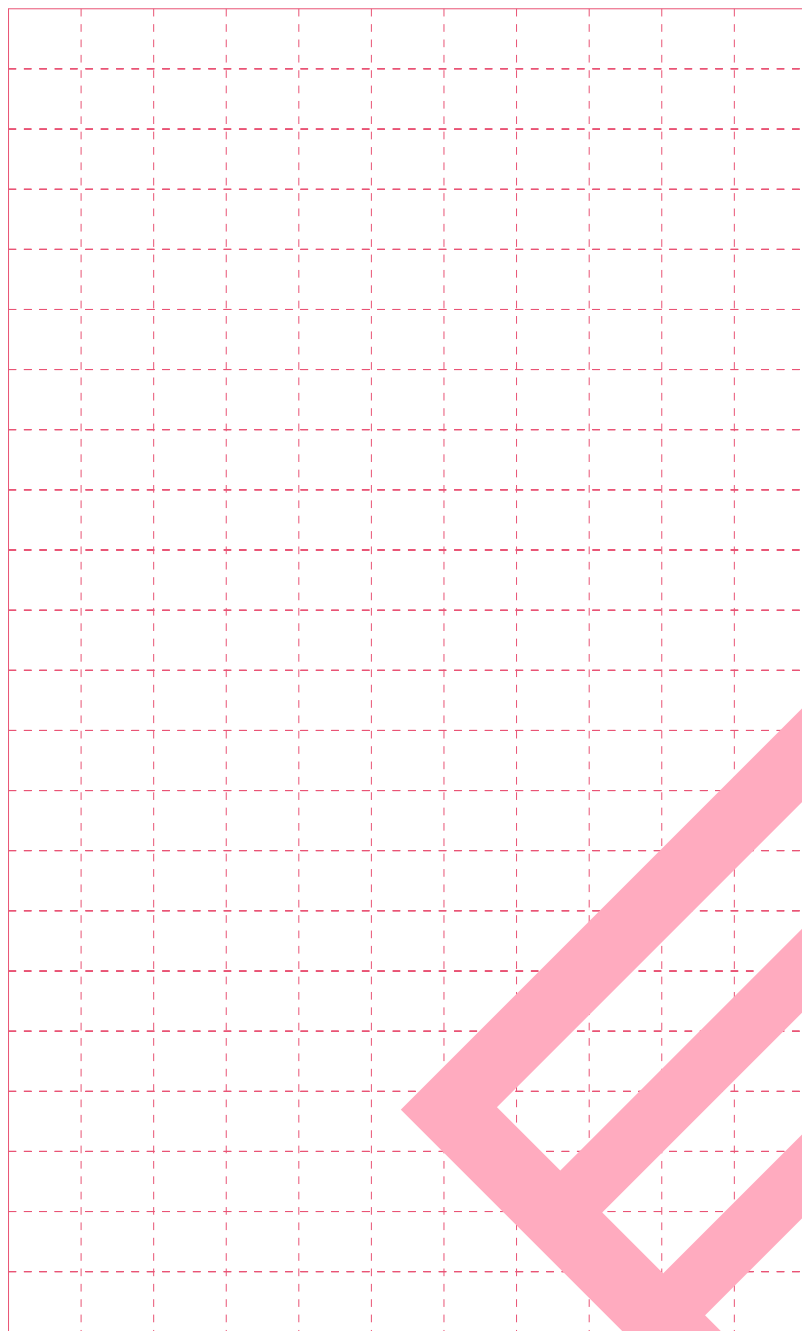
■集めた情報を整理して書きましょう。



二 わり付けを考え、ポスターを作ろう。

ポスターのわり付けを考えると、説明やキャッチコピーなどのように配置すると効果的を考えましょう。

■教科書167ページを参考にして、わり付けを書いてみましょう。



ポイント
図表をどのように活用すると、ポスターの意図が読み手に伝わるか考えよう。

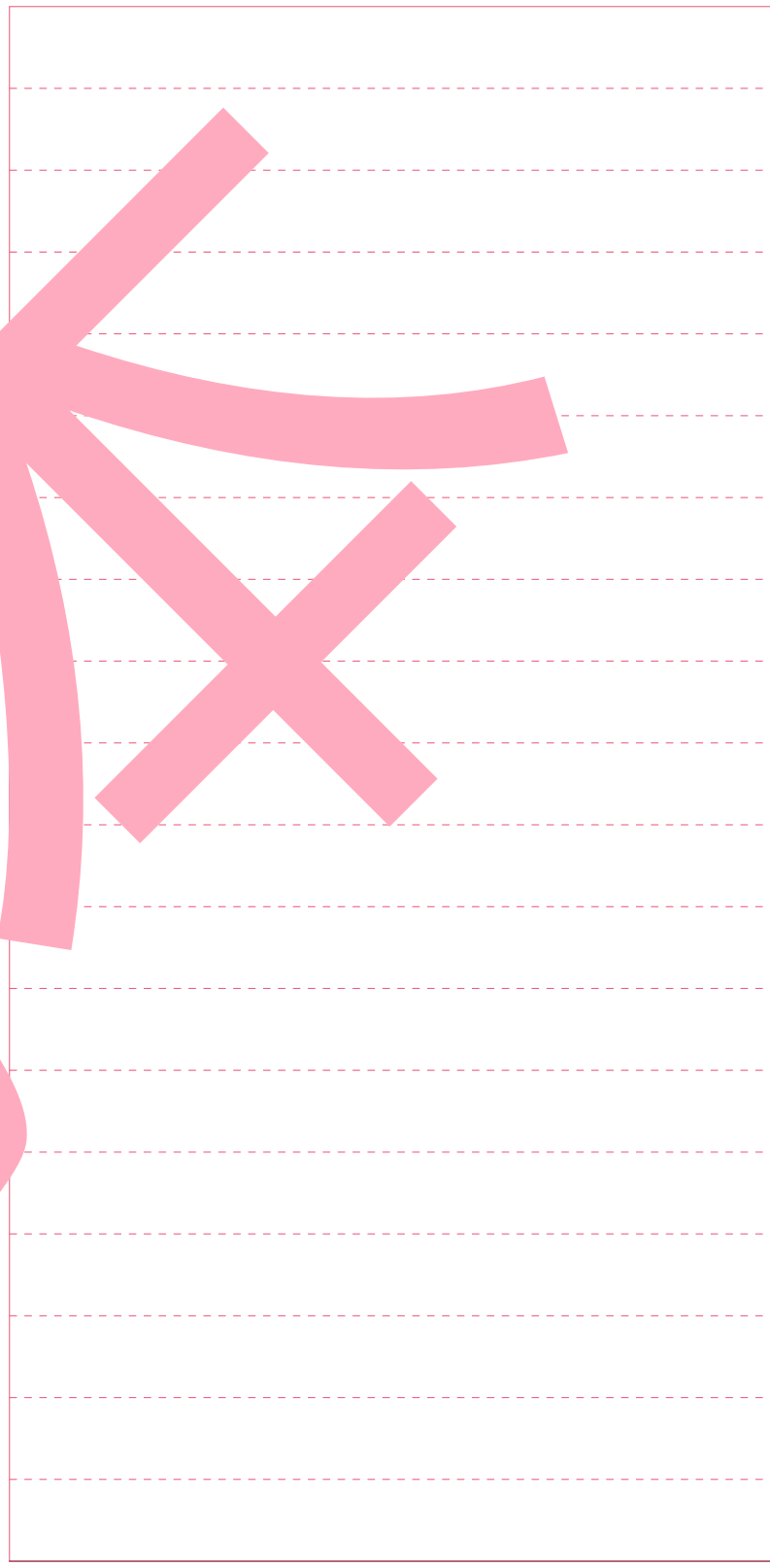


「キャッチコピー」は

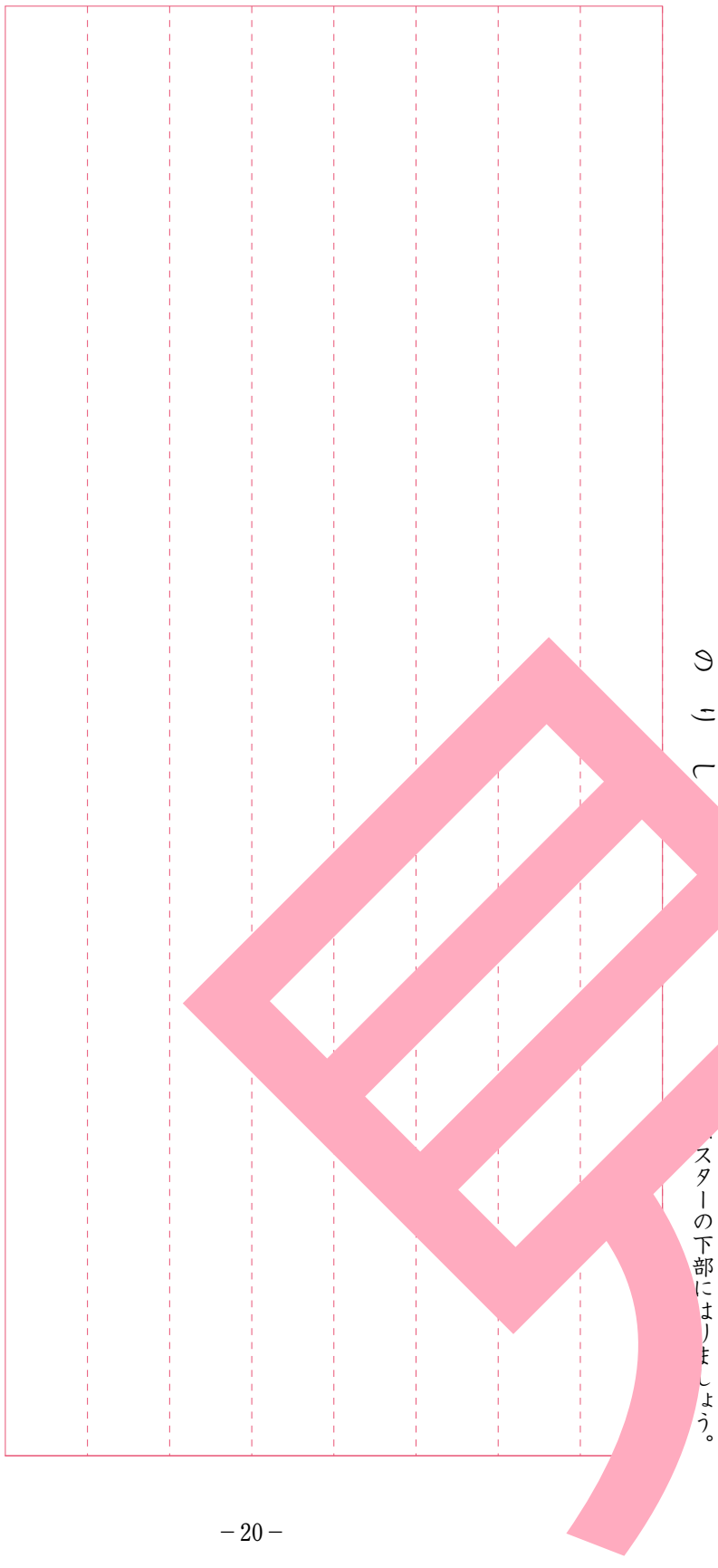
三 ポスターの解説文を書こう。

ポスターの下部や別の紙に、ポスターの解説文を書きましょう。解説文には、どのような目的でテーマを選んだのか、どのような点をくふうしてポスターを作ったのかなどを書きましょう。

キ リ ト リ セ シ



ろ し り の
スターの下部にはりましょう。



ろ し り の
スターの下部にはりましょう。

キ リ ト リ セ シ

ポスターと解説文を読み合い、感想を伝え合いました。

(			
(			
(			
より			
(			
(			
より			
(			

調べた。液を活用すると、
とんなこい
しましたか。



○反対意見を予想して書きましょう

学習の流れ

- ① 自分の立場を決める
- ② 考えを整理しよう。
- ③ 構成を考えよう。
- ④ 意見文を書こう。
- ⑤ 感想を伝え合おう。

『インターネットは冒険(ぼうけん)の宝庫(たからくみ)』という文章は、インターネットがもたらした新しい文化では、ドキュメントを書く必要はない、という考え、そして科学技術の必要はない、という考え、を主張している。

■ 学習の流れ

- ①自分の立場を決めよう。
- ②考えを整理しよう。
- ③構成を考えよう。
- ④意見文を書こう。
- ⑤感想を伝え合おう。

- ・ 反対意見を予想し、どう説得とくするかを考えることで、自分の考えに説得力を持たせる。

- ・自分の考えや、反対意見への対応が明確になるよう、「始め」「中」「終わり」の構成で書く。
- ・自分の考えや経験だけでなく、ほかの人の考えや客観的な事実など、さまざまな情報を結び付けて考える。

一 自分の立場を決めて考えを持つ。

ドラえもんのみみつ道具である「心の声スピーカー」について書かれた教科書231ページの資料を読み、その機能や特性について理解しましょう。
資料から読み取ったことをもとに、「心の声スピーカー」が必要か、それとも不要かについて、自分の立場を決めましょう。

「心の声スピーカー」は必要である・必要ではない

いろいろな意見がある。知るために、ペアやグループになって話し合おう。

二 考えを整理しよう。

「心の声スピーカー」の必要かどうかは、話し合っただけではわからない。自分の考えを整理し、理由を予想して書き出してみよう。予想される反対意見と、その対応を整理しよう。

自分の考えやその理由を整理するメモ

予想される反対意見	自分の考えの理由	自分の考えの理由
反対意見	理由	理由
↓	↓	↓
反対意見への対応	例えば こんなことあったよ	例えば こんなことあったよ

三 構成を考えよう。

考えと理由や反対意見への対応について書き出したことをもとに、自分の考えの構成を整理しよう。手帳やノートにメモをしよう。

始め	話題の提示・自分の考え
中	考えとその理由
	予想される反対意見と、その対応
終わり	まとめ・自分の考え

四 意見文を書こう。

次のような説得力を持たせる表現を使い、構成メモをもとに、自分の考えを文章にまとめましょう。相手への共感の気持ちを表現することが説得力のある文章表現につながります。

★ 説得力を持たせる表現

A 提案理由を説明するときの表現

【例】理由は…。一つ目は…。二つ目は…。

B 予想される反対意見を伝えるときの表現

【例】…という意見もあるでしょう。／確かに…かもしれません。

もっと…かもしれません。／…と考える人もいるでしょう。

C 反対意見への対応を伝えるときの表現

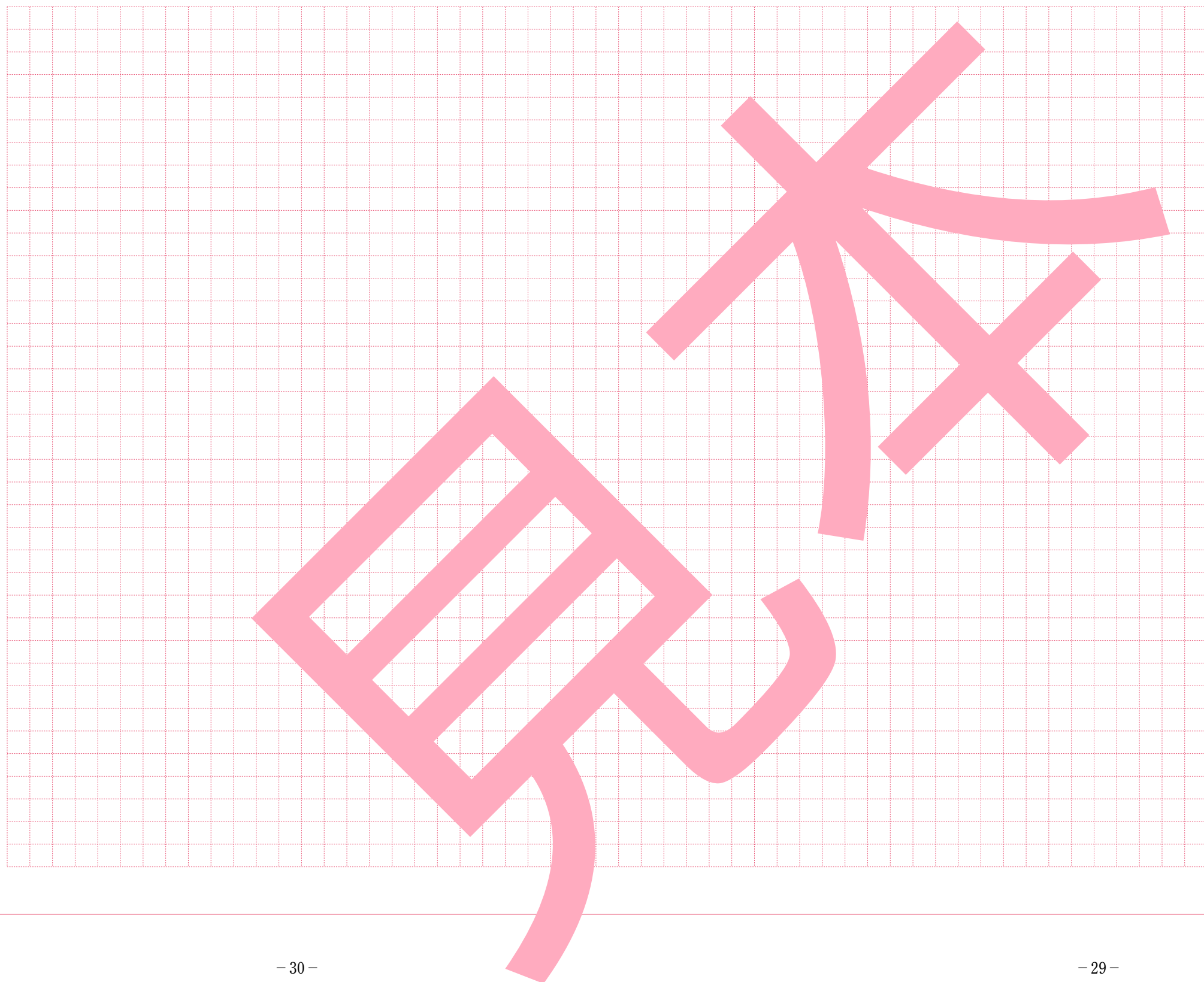
【例】…場合、…するのがよいと思います。／しかし、…だと思います。

三 タウン誌の記事を書こう。

構成メモをもとに記事を書きましょう。読み返して、まちがっているところがないか、よりよくできそうなところがないかなど、文章を推敲^{すいこう}して適切^{てき}に直しましょう。

内容^{よう}が見直せたら、資料の配置や見せ方を決めて、タウン誌の記事を完成させましょう。

キ リ ト リ セ シ



令和
8
年度版

作文の友 5

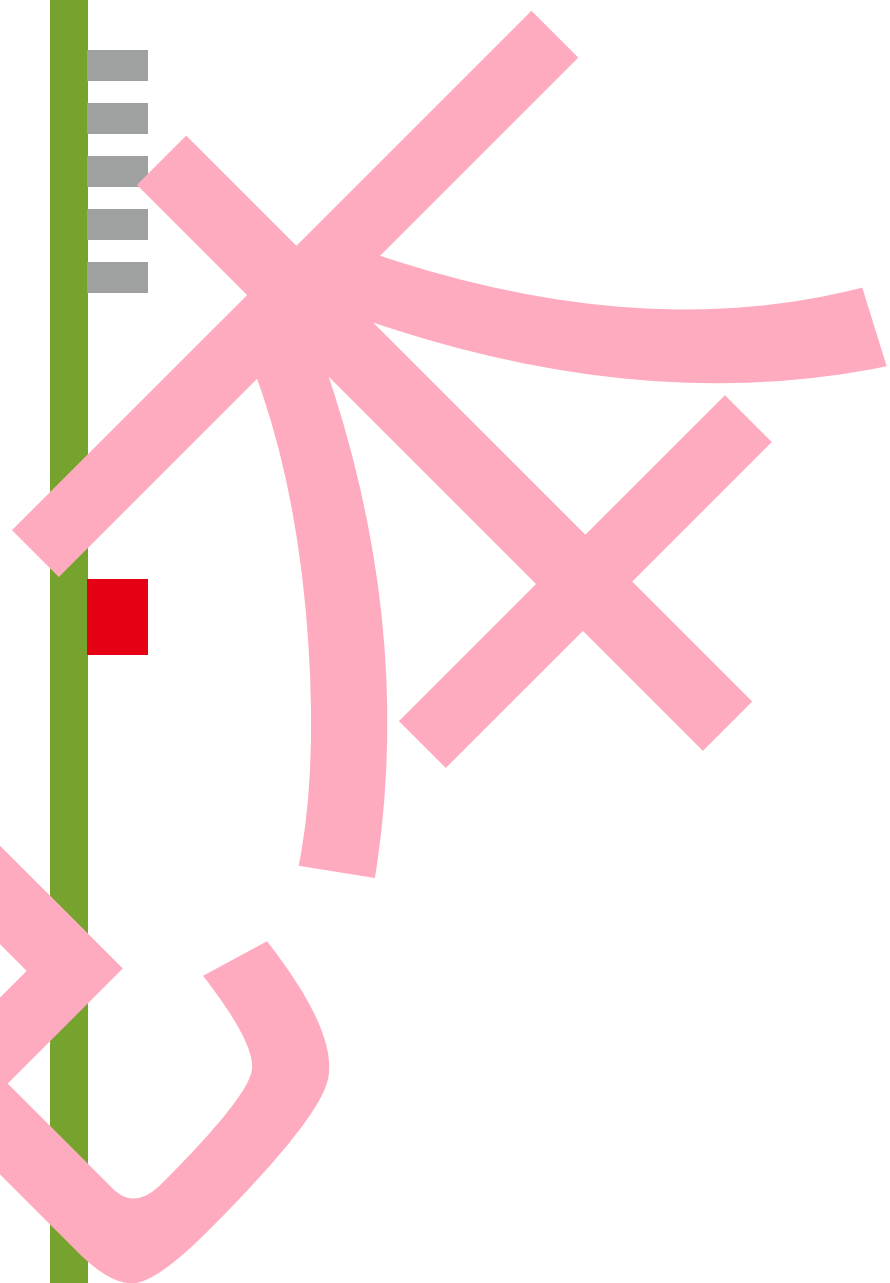
～書くこと 大好き～

教

指導展開例あり



愛知教育文化振興会
三河教育研究会



5	年		組	名前	
----------	---	--	---	----	--



原稿用紙の
正しい書き方

原稿用紙の使い方・書き直し方

題は二、三マスあける

三行目から

書き出しは一マスあける

ただし
「から書き出すとき
は一マスあけない

話しことば・会話は
行をかえる

話しことば・会話
二行目は一マス

会話文の次の行から
新しく文が始まると
きは一マス下げる

話の内容が変わる
ときも一マス下げる

一マスあける

書き直すときの記号
つけくわえる
書きかえる
とる
行をかえる

さいごの一マスあける

いちばん下の「、」「。」はマスの中に入れる

「。」は
同じマスに
書く

「。」

ず	と	小	さ	い	こ	ろ	に	お	兄	ち	ゃ	ん	と	お	姉	ち
の	ふ	も	と													
に	じ	の	ふ	も	と											
の	か	ふ	し	た	ね	。	ど	う	し	て	い	ろ	ん	な	色	が
ん	が	聞	こ	ま	し	た	が	。	わ	か	り	ま	せ	ん		
主	人	さ	が	し	に	行	く									

先生と保護者の皆様へ

- 教科書との関連を図っています。
 - 児童が自分の力で文章が書けるようになることを意図して編集しています。
 - 参考作品は「みかわの子」や地域の読書感想文集に掲載されているものを使っています。
- なお、掲載作品の学校名、地区名については執筆時の名前で表記されています。

令和8年度版 作文 5年

編集 「作文の友」編集委員会
三河教育研究会
刊行 公益財団法人愛知教育文化振興会
〒444-0868 岡崎市明大寺町字馬場東170番地1
電話 0564-51-4819
印刷 あいち印刷株式会社

※無断で複写・複製することを禁じます。

地域のみにょくを 伝えよう

すじ
○筋道を立てて書きましょう

★言葉の力 筋道を立てて書くには

- ・読み手に伝えたいことの中心を考え、情報を整理する。
- ・調べて分かった事実と、自分の考えを区別して書く。
- ・「始め・中・終わり」など、伝える情報に合った文章の構成を考える。
- ・主に「中」の文章のまとまりをくふうする。

■学習の流れ

- ① 題材について情報を集めよう。
- ② 記事の構成を考
- ③ タウン誌の記事を書
- ④ 感想を伝え合おう。

文章の筋道を立てながら、の記事を

○目標 文章の筋道を立てながら、タウン誌の記事を書くことができる。
○関連 「地域のみにょくを伝えよう」

作文の友

～書くこと 大好き～

5



目次

〈教科書との関連〉

1 地域のみにょくを伝えよう……………2

- ・筋道を立てて書きましょう
- 「地域のみにょくを伝えよう」

2 五年生の本だな……………6

- ・読書感想文を書きましょう
- 「図書館へ行こう」「五年生の本だな」

3 心の動きを短歌で表そう……………12

- ・表現をくふうして短歌を作りましょう
- 「心の動きを短歌で表そう」

4 和の文化を発信しよう……………16

- ・目的に応じて情報を関係づけましょう
- 「和の文化を発信しよう」

どう考える？ もしもの技術……………22

反討意見を予想して書きましょう

考える？

の技術

指導展開例あ

付録

詩を作るページもあります。人数に応じて取り組んでください。

一 題材について調べて情報を整理しよう。
次の例を参考に、どんなことをタウン誌の記事に書くかを考えましょう。

〈整理ノート〉

■ 題材の例

- ・ 古くからある名所
- ・ 新しい店や建物
- ・ みりよくのある人物
- ・ 地域特有のめずらしいもの

この他にも、記事にしたい
題材を書いてみましょう。

■ 調べて分かった事実や自分の考えなど、情報を整理して書きましょう。

・ 教科書61ページの二次元コード「デジタルノート」を利用して書かせてもよい。

二 記事の構成を考えよう。

整理した情報をもとに、記事の構成メモを作りました。
文章を書きましょう。分かりやすく伝えるために、各
ポイント

■ 構成メモ

調べて分かった事実から
ポイント
調べるような考
持ったの
りや
明しよう。

始め	どう入
	・ 記事の題材
	・ 問いかけ
中	地いきのみりよく①
	(事実)
	(考え)
	地いきのみりよく②
	(事実)
	(考え)
中	地いきのみりよく③
	(事実)
	(考え)
終わり	まとめ
	・ 自分の考え
	・ よびかけ

三 タウン誌の記事を書こう。

三は後ろの29ページと30ページを使いましょう。

四 感想を伝え合おう。

完成したタウン誌の記事を友達と読み合い、説明が分かりやすいと感じたところや、資料がうまく活用できていると感じたところなどを伝え合いましょう。

五 ふり返りを書こう。
筋道をたてて説明する

どのよう

としましたか。

(より)

(より)

○ 目標
○ 関連

本を読んで強く心に残ったことや考えたことを、自分の姿や経

「言おう」
「できる。」

かです
「うい」

かです
「うい」

五年生の本だな

○読書感想文を書きましょう

一度読み返してみまし
て、初見や心をゆり動
かすことがあつた。こ
の自分のすがたや
考え方についてよく分
かるように、
表現をくふうし、心に残
った本を選んでみるで
しよう。

次へと読み進めたい



一 菜央子さんの感想文を読んで、書くときのポイントを見つけよう。

次の作品は、『捨てないパン屋の挑戦 しあわせのレシピ』を読んで書いた感想文です。主人公、田村さんの生き方について、菜央子さんがどのように感じとり、どのように書き表したのか、よく読んで調べてみましょう。

「いのち」のバトン

豊田・童子山小 三浦 菜央子

① ある朝、私はゆううつな気持ちで学校に向かった。その日の給食のこんだてに私の大好きなナッツサラダがあった。給食の時間がやってくると、

「ああ、今日もナッツサラでも合わないよ。」

と、つぶやいた。その時の私は、食べ物にナッツアレルギーがあることを、この本『いのち』で知った。宿題として、深く考えたことなかった。

② この本の主人公は、食生活が健康で、環境問題が身近なものだと思える。その田村さん

とはいえ、田村さんは、簡単に「捨てないパン屋」になっただけではない。長い時間をかけて、ようやく「捨てないパン屋」になることができた。食べ物をむだにしないという信念に努力し、考え続けた田村さんは、自分の信念を、すごいと思う。

③ 田村さんは、結果として、食べ物がいちばんの環境問題だということにたどりついたのだが、その考えには私もおどろいた。今まで一度も、環境問題がこんなにも身近なものだと思えたことがなかったからだ。その後も田村さんは、環境にやさしい「ほんもののパン」をつくるために、フランスで色々なことを学んだ。そしてやっと、パン職人もお客さんも農家も、みんながしあわせになれるしあわせのレシピを見つけたのだ。田村さんのつくる「ほんもののパン」は、まきを燃やしてつくる。つまり、小麦だけでなく、木の「いのち」も受けつがれているというわけなのだ。田村さんは今、さまざまな「いのち」が宿ったパンを、決して捨てることなく、バトンとしてお客さんに手わたしをしている。

④ 田村さんのパンに限らず、この世の中のどんな食べ物にも、たくさんの「いのち」が宿っているのではないかと私は思った。

○書き出しをくふうしてみましょう。

①② 作者は本に出会う前の自分のすがた（経験）から書き出しています。そして、本の内容や主人公についてしうかいし、そのすばらしさにふれています。ほかにも次のような書き方があります。読み手を引きつける効果的な書き出しを考えましょう。

- ・本を読んだときの気持ち（感動・おどろき・悲しみ）から
- ・登場人物や筆者へのよびかけ・会話文から
- ・本を読むきっかけになったことから
- ・書名や心に残った登場人物のすがたから
- ・本の内容のしうかい（自分が気に入ったところ）から

登場人物の言葉や自分の考え、行動、感情などを引用して書く。例えば、『いのち』の田村さんは、「食べ物をむだにしない」という信念に努力し、考え続けた。この本を読んで、私も環境問題について考えるようになった。田村さんのパンは、木や小麦などの自然の恵みを受けてつくられる。私も自然の恵みを受けて生きていく。この本を読んで、私も環境問題について考えるようになった。田村さんのパンは、木や小麦などの自然の恵みを受けてつくられる。私も自然の恵みを受けて生きていく。

- ・具体例・自分の経験談を入れる
- ・本の中に何度も登場する言葉をテーマに決めて書く。
- ・事実（具体例）と自分の感想・意見を区別して書く。

もちろん私の苦手なナッツサラダにも、私の命のかてとなる、たくさんの「いのち」が宿っていたのだ。野菜やナッツを栽培（さいばい）したり、運んだり、調理したりするのにも、たくさんの人手とエネルギーが使われている。そんな多くの愛情をかけられたナッツサラダに、ただ文句（ぶんぐ）を言っていた自分が、なんだかはずかしくなった。食べ物に対して、もっと感謝（しゃん）の気持ちをもたなければならぬ。そう思ったとき、私は、ふと学校みんなが残した給食は、いったいどこへ行くのだろうかとう気になった。調べてみると、そのまま捨ててしまっていることが分かった。私のおねがぎゅつと痛（いた）んだ。

⑤ 食べ残しは、どうしたら食べ物に対する意識が変わるために、食べ物にはたいうこと、私はみんな「うち」のバとを、とを、は心をつなぐの先き、宿っているとして世界中のしあわ

井出留、

しあわせのレシピ」あかね書房

○自分のこれまでの生き方や考え方と比べて、学んだことを書きましよう。

4 作者は、本の主人公の考えにふれ、自分の苦手なナッツサラダにも「たくさんの『いのち』が宿っている」と気づいたことを書いています。今までの自分を反省する気持ちや、疑問に思ったことを調べて感じた気持ちを素直に表現することで、読み手に作者の考えの変化が伝わります。

○しめくくりをくふうして書きましょう。

⑤ 作者は、本から学んだことを「『いのち』のボタン」という題名につながる表現を用いてまとめています。最後に、自分の願いを力強く書くことで印象的しゅうなしくくりになっています。



自分の経験と本の
テーマをうまくか
かわらせた感想文

二 メモを取りながら読もう。

心に残った本を選び、次のことについてメモを取りなが

		作者名	書名
(1) この本を選んだわけ、この本を読もうと思ったきっかけ			

・心に強く感じたことや想像したことを、具体的な言葉で表現させる。

(3)	心に残った場面や言葉								
(4)	自分と似ていると思ったこと、ちがうと思ったこと								
(5)	自分が思ったこと、考えたこと								
(6)	読む前と比べて、ものの見方や考え方が変わったところ								

三 感想文を書こう
どんな順序で書き進め合い、感想を伝え合おう。

○目標 表現を工夫しながら、心の動きを短歌で表すことができる。
○関連 「心の動きを短歌で表そう」

生活の中で新しい発見をせんか。その中から、書き表しましょう。

- 学習の流れ
- ①材料を集めよう。
 - ②三十一音で表現しよう。
 - ③表現をくふうして短歌を作ろう。
 - ④感想を伝え合おう。

★言葉の力 表現をくふうして短歌を作るために

- ・心の動きや出来事の様子が伝わるように言葉を選ぶ。
- ・何を伝えたいかを考え、より適切な言葉をさがす。
- ・言葉の順序を入れかえたり、言葉の組み合わせを考えたりして、表現をくふうする。

心の動きを短歌で表そう

○表現をくふうして短歌を作りましょう

一 材料を集めよう。

生活の中で、心が動いた場面や出来事を思い出し、材料を集めましょう。したこと、見たこと、聞いたことなどをメモに書き出し、そこから連想した言葉をつないで発想を広げましょう。

連想メモを書きましょう。

二 三十一音で表現しよう。

メモしたことの中から題材を選び、発見や感動を五・七・五・七・七の三十一音のリズムで表現しましょう。

音の数え方

- ・かな一字につき一音と数えるのが基本。
- ・「ん」、「ー(のばす音)」、小さい「っ」も一音。
- ・「しゃ」「しゅ」「しょ」などのように、二字で一音となるものがある。

三十一音で表現しましょう。

五 七 五 七

※リズムがあれば、

だわらなくてよい。

三 表現をくふうして短歌を仕上げよう。

作った短歌を声に出して読んだり、友達と読み合ったりして、もっとくふうできそうなどころがないかを考えましょう。

くふうするポイント

- ・心の動きや出来事の様子が伝わるように言葉を選ぶ。
- ・何を伝えたいかを考え、より適切な言葉を選がす。
- ・言葉の順序を入れかえたり、言葉の組み合わせを考えたりして、表現をくふうする。

(例) 妹と観察したよたくさんの

流星群を夜ふかしをして

夜ふかしで流星群を観察だ

あっちもきらりこっちもきらり



「似ている別の言葉の例」

七 七 五 七 五 七 七 七 七

(1) できあがった短歌を友達と交かんして読み合い、思いうかぶ場面の様子やおもしろいと感じたところなど感想を伝え合います。

(				
(				
(				
より				
(				
(				
より				
(				

(2) どのように表現をく、して、短歌をよしたか。

○目標 資料を効果的に活用しながら、和の文化のポスターを作ることがで

○関連 「和の文化を発信しよう」

和の文化を
発信しよう

○目的に^{おう}応じて^{じょうほう}情報を関係づけましょう

■ 学習の流れ

- ① 題材を決めて情報を集めよう。
- ② わり付けを考え、ポスターを作ろう。
- ③ ポスターの解説文（かいぶん）を書こう。

「和の文化を受けつぐ」を「和の文化について学び、和の文化を伝える」から、「和の文化について学び、和の文化を伝える」に改題し、ポスターにまとめた。

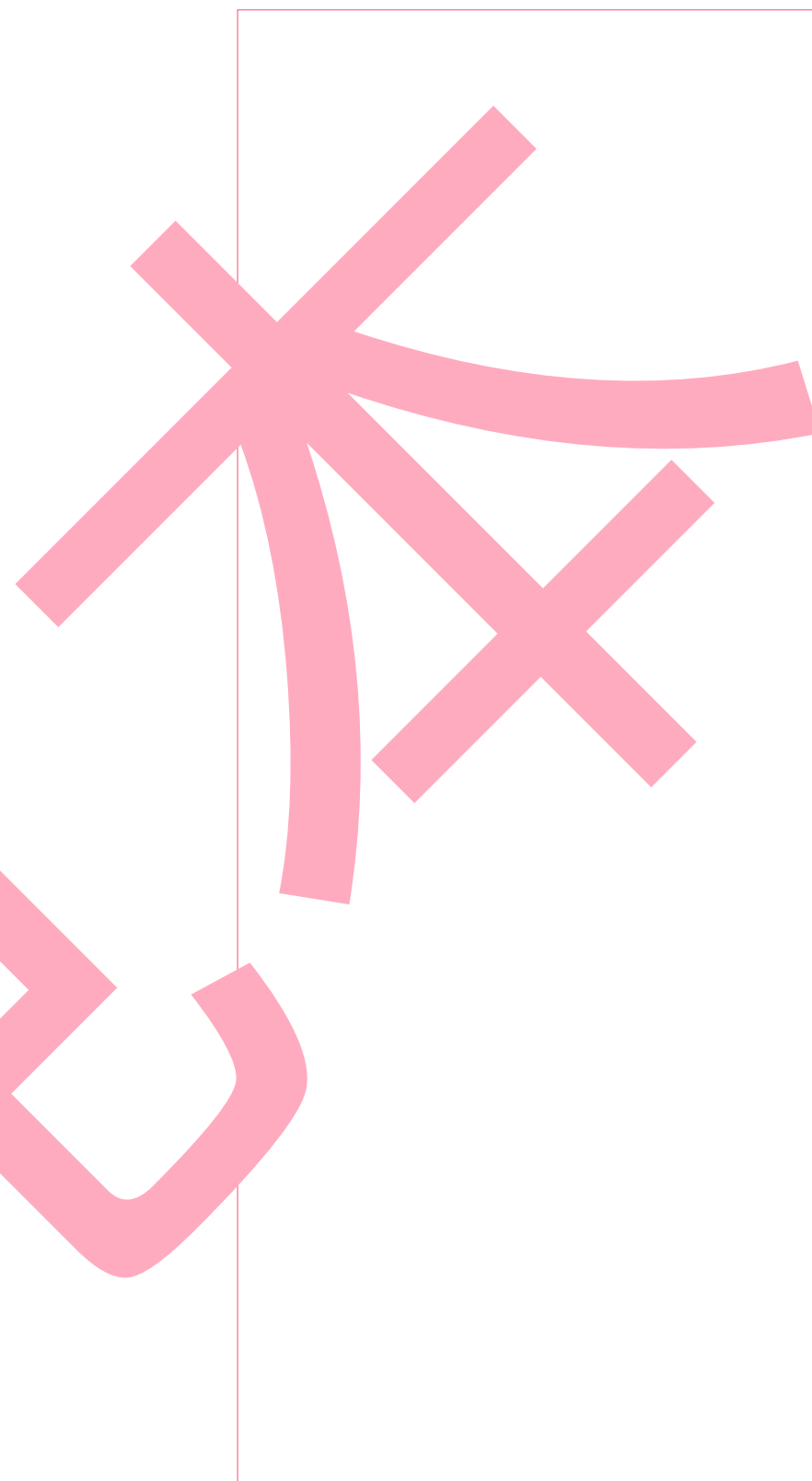
★言葉の力 目的に応じて情報を関係づけるためには

- ・ 何のために伝えるのか、目的を明確にする。
- ・ さまざまな方法で情報を集め、その中から目的に合ったものを選ぶ。
- ・ 文章だけでなく、表やグラフ、写真などの資料を適切に使って表す。
- ・ 文章と図表との関係を考えて、情報を効果的に示す。

一 テーマを決めて情報を集めよう。
各自でポスターのテーマを決めたら、本やインターネットで集めた情報を整理しましょう。そのうえで、ポスターで何が伝えたいのかを考えましょう。

■集めた情報を整理して書きましょう。

・教科書166ページの二次元コード「デジタルノート」を利用して書かせてもよい。



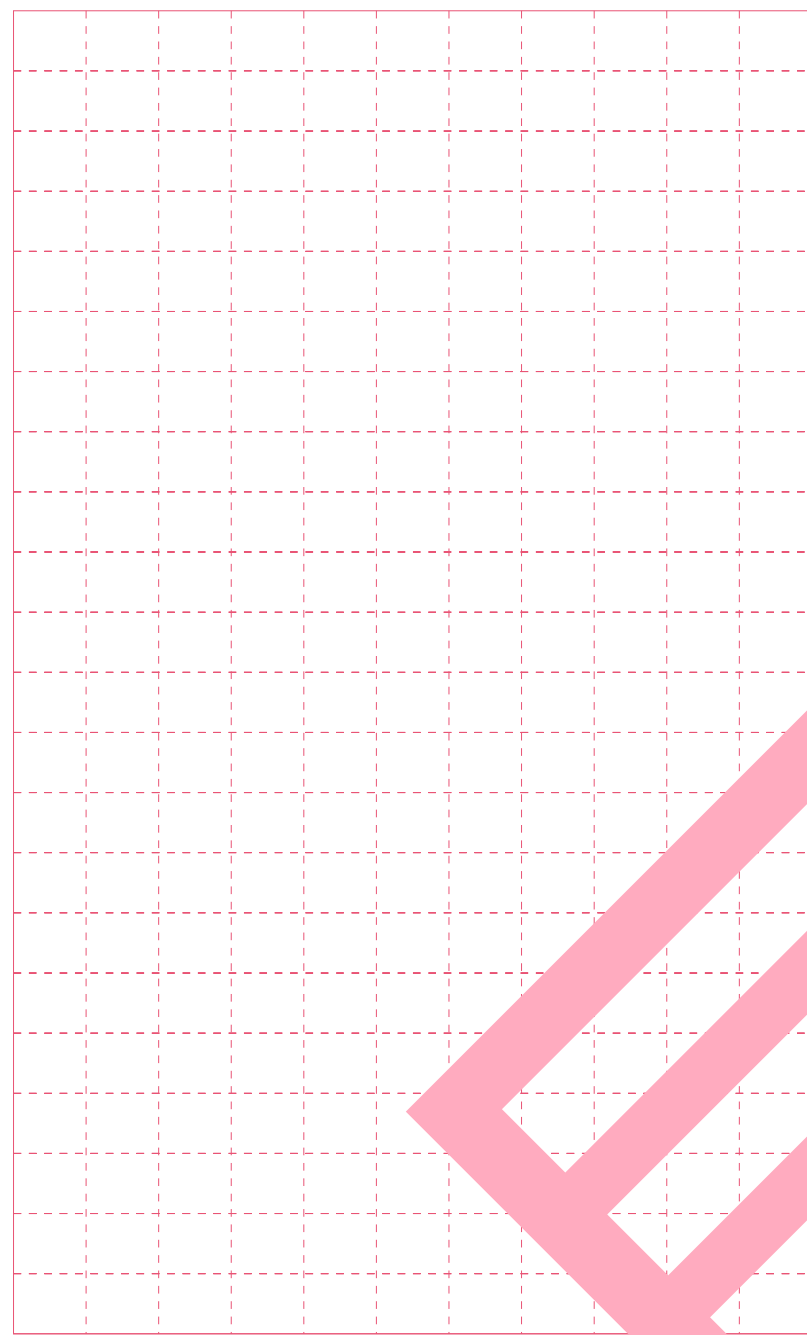
二 わり付けを考え、ポスターを作ろう。

ポスターのわり付けを考えると、説明やキャッチコピーなどの文章を真などのように配置すると効果的を考えましょう。

■教科書167ページを参考にして、わり付けを書いてみましょう。



「キャッチコピー」は



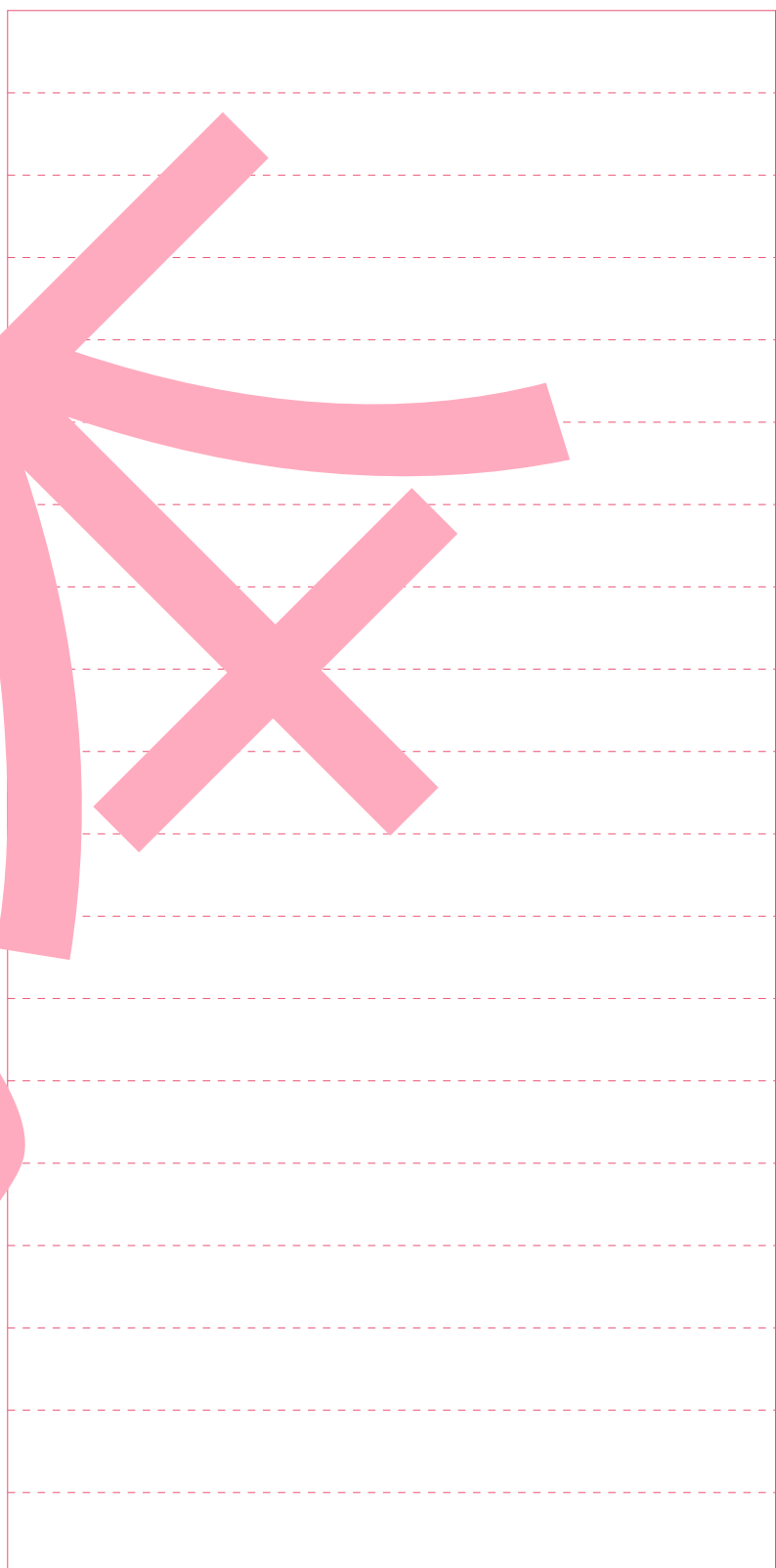
・必要に応じて縦書き、横書きを選ばせる。

ポイント
図表をどのように活用すると、ポスターの意図が読み手に伝わるか考えよう。

三 ポスターの解説文を書こう。 ・必要に応じて縦書き(19ページ)、横書き(20ページ)を選ばせる。

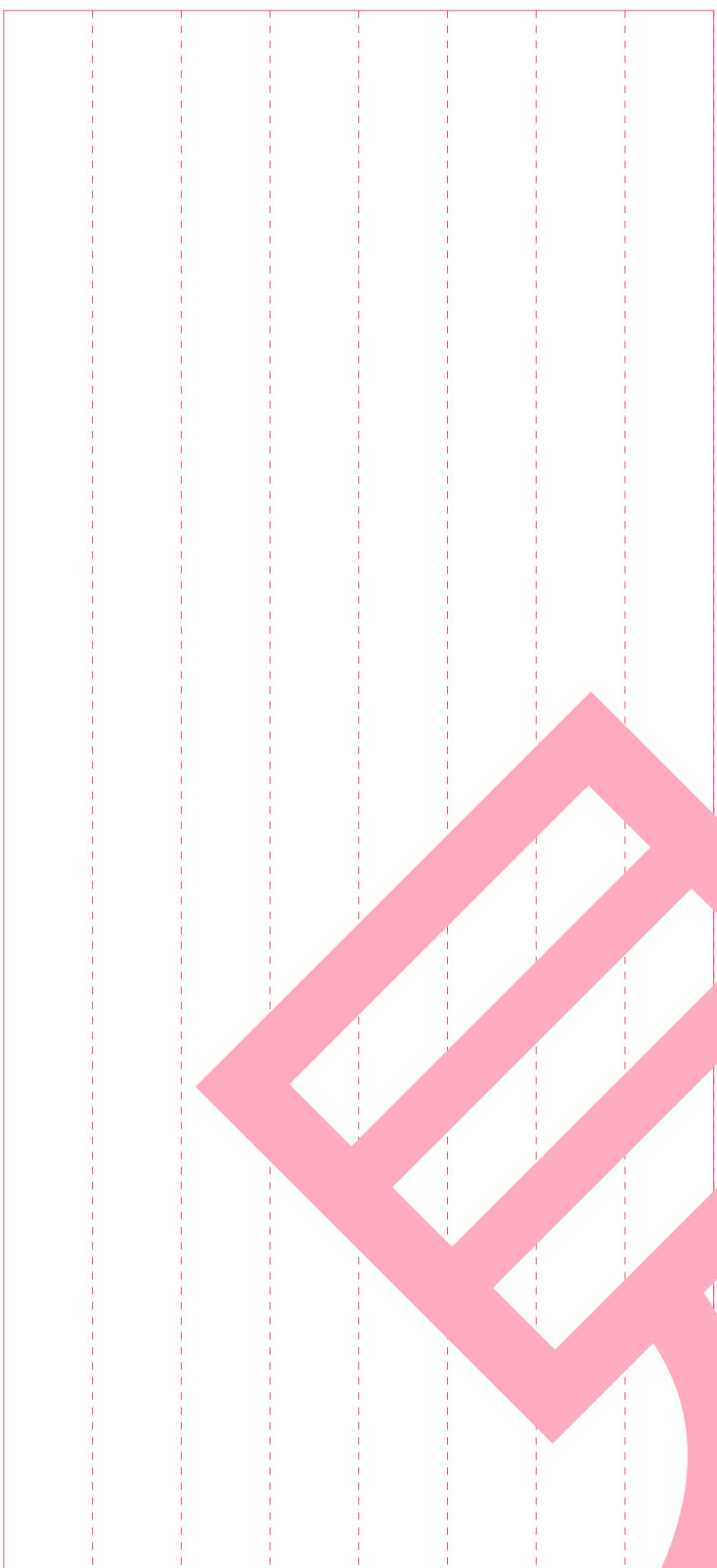
ポスターの下部や別の紙に、ポスターの解説文を書きましょう。解説文には、どのような目的でテーマを選んだのか、どのような点をくふうしてポスターを作ったのかなどを書きましょう。

キ リ ト リ セ シ



ろ し り の

スターの下部にはりましょう。



ろ し り の

スターの下部にはりましょう。

キ リ ト リ セ シ

ポスターと解説文を読み合い、感想を伝え合いました。

(				
(				
(				
より				
(				
(				
より				
(				

調べた情報を活用すると、こんなことをしましたか。

○反対意見を予想して書きましょう

- 目標 反対意見を予想しながら、説得力のある意見文を書くことができる
- 関連 「どう考える? もしもの技術」

『インターネットは冒険(ぼうけん)』
技術に関わる文章を読(よ)んで、
そして科学技術の必(かなら)ず

■ 学習の流れ

- ①自分の立場を決める。
- ②考えを整理しよう。
- ③構成を考えよう。
- ④意見文を書こう。
- ⑤感想を伝え合おう。

★言葉の力 反対意見を予想して書くために

- ・ 反対意見を予想し、どう説得するかを考えることで、自分の考えに説得力を持たせる。
- ・ 自分の考えや、反対意見への対応が明確になるよう、「始め」「中」「終わり」の構成で書く。
- ・ 自分の考えや経験だけでなく、ほかの人の考えや客観的な事実など、さまざまな情報を結び付けて考える。

一 自分の立場を決めて考えを持つ。

ドラえもんのみみつ道具である「心の声スピーカー」について書かれた教科書231ページの資料を読み、その機能や特性について理解しましょう。
資料から読み取ったことをもとに、「心の声スピーカー」が必要か、それとも不要かについて、自分の立場を決めましょう。

「心の声スピーカー」は必要である・必要ではない

いろいろな意見がある。知るために、ペアやグループになって話し合おう。

二 考えを整理しよう。

「心の声スピーカー」の必要か、必要ではないか、など、課題を話し合おう。話し合ったことをもとに、自分の考えを整理しよう。
自分の考えや理由、予想される反対意見、それに対する対応を予想して書き出そう。予想される反対意見に対しては、ばよいかなど、対応を考えよう。

■自分の考えやその理由を整理するメモ

予想される反対意見	自分の考えの理由	自分の考えの理由
反対意見	理由	理由
↓	↓	↓
反対意見への対応	例えば こんなことあったよ	例えば こんなことあったよ

三 構成を考えよう。

考えと理由や反対意見への対応について書き出したことをもとに、自分の考えや理由、予想される反対意見など、どのような順序で書くかを考えよう。手帳やノートに書くときは、構成を整理しよう。

■構成メモ ・ P 25の★説得力を持たせる表現を参考にしよう。

始め	話題の提示・自分の考え
中	考えとその理由
	予想される反対意見と、その対応
終わり	まとめ・自分の考え

四 意見文を書こう。

次のような説得力を持たせる表現を使い、構成メモをもとに、自分の考えを文章にまとめましょう。相手への共感の気持ちを表現することが説得力のある文章表現につながります。

★ 説得力を持たせる表現

A 提案理由を説明するときの表現

【例】理由は…。一つ目は…。二つ目は…。

B 予想される反対意見を伝えるときの表現

【例】…という意見もあるでしょう。／確かに…かもしれません。

もっと…かもしれません。／…と考える人もいるでしょう。

C 反対意見への対応を伝えるときの表現

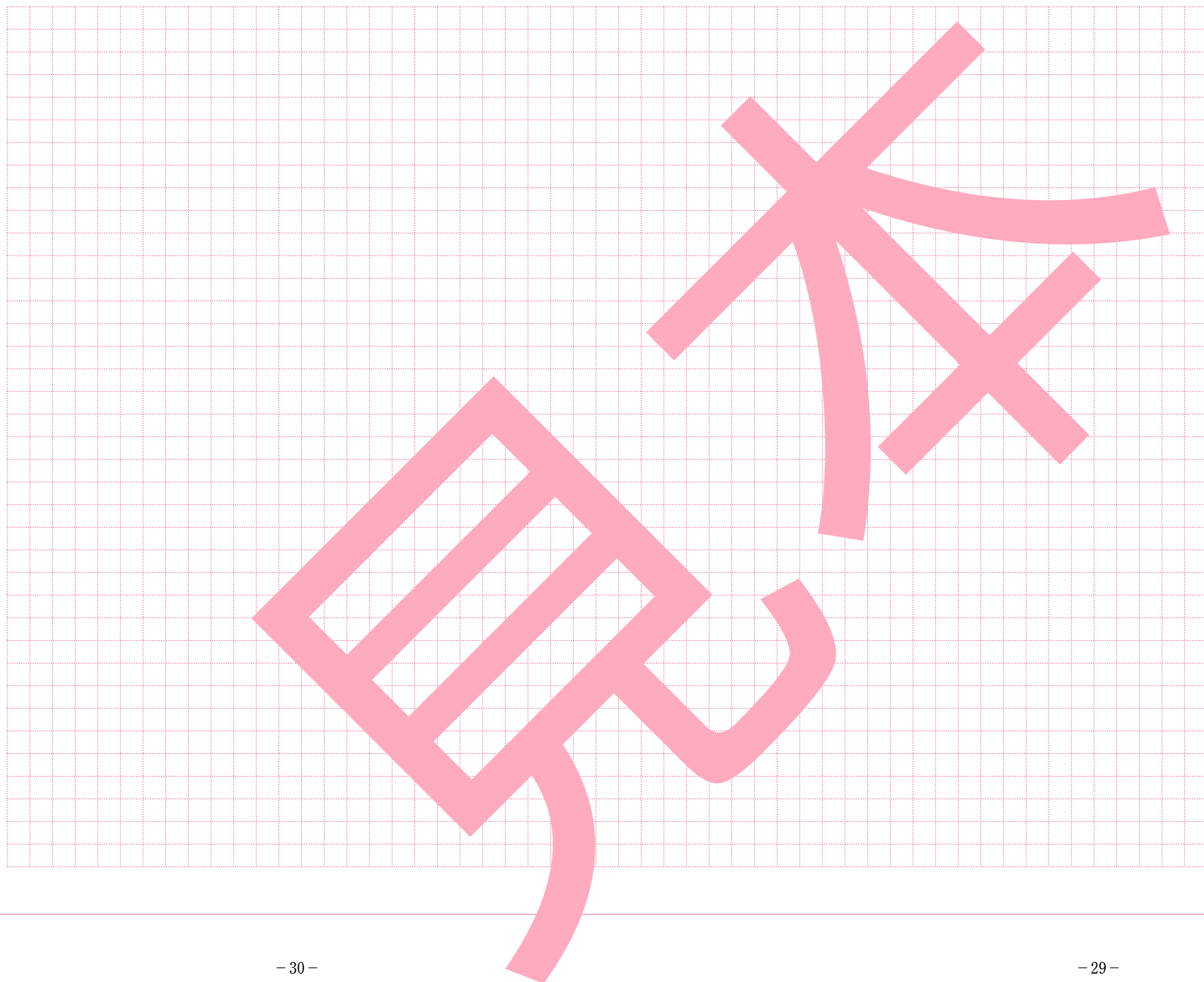
【例】…場合、…するのがよいと思います。／しかし、…だと思います。

三 タウン誌の記事を書こう。

構成メモをもとに記事を書きましょう。読み返して、まちがっているところがないか、よりよくできそうなどところがないかなど、文章を推敲^{すいこう}して適切^{てき}に直しましょう。

内容^{よう}が見直せたら、資料の配置や見せ方を決めて、タウン誌の記事を完成^{よう}させましょう。

キ リ ト リ セ シ



地域のみによくを伝えよう

――筋道を立てて書きましよう――

《教科書との関連》

「地域のみによくを伝えよう」

一 学習目標

1 文章の筋道を立てながら、タウン誌の記事を書くことができる。

二 指導事項

1 地域のみによくを多くの人に伝えることを目標に、題材についての情報を集めさせる。

2 地域のみによくを多くの人に伝えるための文章全体の構成や展開、資料の活用のかたを学ばせ、それらを生かして筋道の通った文章を書かせる。

三 展開例

学習の流れ	内容・活動	指導上の留意点
① 学習課題をつかみ、例文を読んで工夫を見つける。	① 学習課題をつかみ、教科書P61の例文を読んで、学んだ点やよい点を話し合う。	① 構成に関する工夫を確認させる。 ○調べて分かった事実だけでなく、そこから考えたことが書かれていることを想起させる。
② 地域のみによくについて、調べると決める。	② 地域のみによくについて、調べると決める。	③ 整理する際には、箇条書きにするなど、分かりやすく簡潔にまとめるようにさせる。 ○資料から分かったことと自分の考えを分けて書く。フ、表など、資料として使えるものの例。
③ 調べて、分かった事実や、そこから考えたことを整理する。	③ 調べて、分かった事実や、そこから考えたことを整理する。	

④ 整理した情報をもとに構成を考える。	④ 教科書P61の構成メモの例を見ながら、始め、構成メモを書く。	○資料から取る際には、次のことを伝える。 ・題名・見出し・本文・写真・図表・グラフ・表など、資料として使えるものの例。 ・グラフを、次の点に気をつける。 ・円グラフ→数値の割合が分かるように。 ・棒グラフ→差、内訳やその変化が分かるように。 ・表→見出し、内容を空けて書くよう指導する。
⑤ 構成メモをもとに、文章を書く。	⑤ 構成メモをもとに、地域のみによくについて説明する文章を書く。	○資料を貼るときは、スペースを空けて書くよう指導する。 ・ある言葉や数値は正しく引用されているか。 ・内容に合う、効果的な題名を工夫させる。
⑥ 相互評価をし、文章を手直しする。	⑥ 書いた文章をグループで読み合い、よりよい文章にするために推敲する。	○読み合うときの観点に着目して、評価するように伝える。 ・伝えたい内容が伝わっているか。 ・事実と考えを区別して書けているか。 ・資料が活用されているか。
⑦ 感想を伝え合い、振り返りをする。	⑦ 書いた文章をグループで読み合い、感想を伝え合う。 (1) 書いた文章を友達と読み合い、説明が分かりやすいと感じたところや、資料がうまく活用できていると感じたところを伝え合う。 (2) 筋道を立てて説明するために、どんなことに気をつけたか振り返る。 (設問四) (設問五)	

五年生の本だな
―読書感想文を書きましよう―

一 学習目標

1 本を読んで強く心に残ったことや考えたことを、自分の姿や経験と関係づ
けながら書くことができる。

二 指導事項

- 1 本を読んで心に残った場面や感動を、自分の体験やふだん考えていること
と関連づけて表現させる。
- 2 読み手を引きつける文章にするために、題名や書き出し、書くことからの
順序を工夫させる。

《教科書との関連》

- 「図書館へ行こう」
- 「五年生の本だな」
- 「読書の世界を広げよう」
- 「伝記を読んで感想文を書こう」

三 展開例

学習の流れ	内容・活動	指導上の留意点
① 参考作品を読んで書き方や構成の工夫を学習する ② 選んだ本を読みながら、メモをとる。	① 参考作品の学習を通じて、読書感と具体例の書き出しの見方や考え方を学ぶ。 (1) 書き出しの具体例の書き出しの見方や考え方を学ぶ。 (2) 自分と筆者の考えを比べて、自分の考えを振り返っていることを知る。 (3) 本を読んで考えたこと、自分の考えを振り返っていることを知る。 ② 動した場面や考えたことをメモする。 (1) 動した場面や考えたことをメモする。 (2) 動した場面や考えたことをメモする。 (設問二)	① 書き出しの工夫の例を示す。 ○自分が登場人物と比べてどうであるのか、振り返って書くことよいことに気づかせる。 ○本を読んで考え方が変わったことや学んだことを、まとめて書いていることを知らせる。 ② ①あらすじは、詳しく書きすぎず、特に心に残った部分を書き出すようにさせる。

学習の流れ	内容・活動	指導上の留意点
③ 構想を立てる。 ④ 記述する。 ⑤ 推敲する。	③ 設問二で書いたメモをもとにして、次のことに注意して書く。 ・ 主題をはっきりさせる。 ・ 主題に関わる題材を自分のメモから拾う。 ・ 書き出しや書く順序を決める。 ・ 題名を考える。 ④ 構想メモにもとづいて記述する。 ・ 段落を意識して書く。 ・ 作品から文章を引用するときは、引用と分かる書き方をする。 ⑤ 書いた感想文を読み合い、その本を読んでいない人にも、自分の考えがよく分かるように書けているか確かめ、推敲する。 (設問三)	○心に残った場面や感動を、一つ一つの場面や登場人物の言葉などから拾い出す。 ○自分の経験や考えと登場人物の考えを比べて、自分の考えを振り返っていることを知る。 ○本を読んで考え方が変わったことや学んだことを、まとめて書いていることを知らせる。 ○あらすじは、詳しく書きすぎず、特に心に残った部分を書き出すようにさせる。

心の動きを短歌で表そう

―表現をくふうして短歌を作りましょう―

《教科書との関連》
「心の動きを短歌で表そう」

一 学習目標

1 表現を工夫しながら、心の動きを短歌で表すことができる。

二 指導事項

1 自分の考えや感じたことを明確に表すために、言葉を吟味させたり、表現を工夫させたりする。
2 互いの短歌を読んで、それぞれの表現のよさを見つけさせ、伝え合わせる。

三 展開例

学習の流れ	内容・活動	指導上の留意点
① 短歌を読む。	① 教科書P115の短歌を読み、心の動きを確かめたり、浮かべた情景を話合う中で、短歌のきまりを確認する。	① 優れた表現、気に入った表現に線を引かせる。 ○好きな短歌を選び「いつ」「どこで」「どんなこと」「どんな思い」が表れているか確認させる。
② 材料を集め、短歌を作る。	② ①で集めた材料の中から、短歌を作る。 （設問二）	② ①したこと、見たこと、聞いたことなどを手がかりとして連想させ、幅広く材料を集めさせる。 ○音数の数え方にしたがって、三十一音で表させる。 ○リズムがあれば字数にこだわらなくてもよいことを認める。

③ 表現を工夫して短歌を仕上げる。	③ 言葉を吟味したり、表現を工夫したりして、短歌を仕上げる。 （設問三） ④ ペアやグループで短歌を読み合い、工夫できるところや、自分の気持ちや行動を表す言葉を検討する。	③ 言葉の順序を入れ替えるなど、工夫する。 ○工夫するポイントについて話し合う。
④ 短歌を読み合っ、感想を伝え合い、振り返りをする。	④ 友達と短歌を読み合い、感想を伝え合う。 ⑤ 友達と短歌を読み合い、思い浮かぶ場面や、短歌のよさなどを伝え合う。 ⑥ 発見や感動を伝えるために、言葉や表現を工夫する。	④ 材料や、効果的な表現技法について話し合う。 ○比喩、擬音、擬態、倒置法などの表現技法について話し合う。

和の文化を発信しよう

——目的に応じて情報を関係づけましょう——

《教科書との関連》
「和の文化を発信しよう」

一 学習目標

1 資料を効果的に活用しながら、和の文化のポスターを作ることができる。

二 指導事項

- 1 ポスターをかくことを目標に、和の文化についての資料を集めさせる。
2 文章と図表の組み合わせ方を学ばせ、割り付けを考えてポスターを作ったり、解説文を書かせたりする。

三 展開例

学習の流れ	内容・活動	指導上の留意点
① 「和の文化を受けつぐー和菓子やさぐー」を読む。	① 「和の文化」について調べ、必要とする筆者の考えや力を読み取る。 (2) 筆者の説明文を読み取る。 (3) 資料の効果的な使い方を調べる。	① 調べたことや考えたことを伝えるときに、資料が使われていることを確認させる。 ○ 「歴史」「ほかの文化との関わり」「支える人々」の三つの観点ごとに説明されていることを確認させる。
② 「和の文化」について調べる。	(1) 「和の文化」について調べ、必要とする筆者の考えや力を読み取る。 (2) 筆者の説明文を読み取る。 (3) 資料の効果的な使い方を調べる。	② 前時までに学んだ観点を参考にさせる。 ○ 文章との関係やポスターにすることを考えて、効果的な資料を選ばせる。

③ 割り付けを考え、ポスターを作る。	③ 情報を整理してポスターを作り、その解説文を書く。 (1) 集めた情報を整理して、ポスターの内容を考える。 (2) ポスターの構成にそって、割り付けや必要な資料を調べる。 (3) ポスターにのせる文章やキャッチコピー、写真を決める。 (4) 目的や工夫した点を入れた解説文を書く。	③ 内容や、割り付けを考えたときには、目的に合うように、必要とする資料を集める。 ○ 実際のポスターに貼る資料は、どのような割り付けで貼るか、効果的な資料を集めた写真、図表を貼る。
④ 感想を伝え合い、振り返りをする。	④ 作ったポスターを読み合い、感想を伝え合う。 (1) 作ったポスターを読み合い、説明が分かりやすいと感じる部分や、写真や図表がうまく活用できていると感じたところを伝え合う。 (2) 目的に応じたポスターにするために、どのように図表を使うかを考える。 (3) 目的や工夫した点を入れた解説文を書く。	④ 目的や工夫した点を入れた解説文を書く。

どう考える？ もしもの技術

— 反対意見を予想して書きましよう —

《教科書との関連》
「どう考える？」 もしもの技術

一 学習目標

1 反対意見を予想しながら、説得力のある意見文を書くことができる。

二 指導事項

- 1 自分の意見について様々な視点から反対意見を予想し、それに対する対応を考えさせる。
- 2 文章構成や展開を工夫させ、説得力のある意見文を書かせる。

三 展開例

学習の流れ	習 内 容 ・ 活 動	指 導 上 の 留 意 点
① 学習のめあてをつかみ、学習課題を立てる。	① ドラえもんが、自分とは反対立場の人を説得するための意見文を書くこと。 (1) 教科書P231～232を読み、自分なりの説得力のある意見文を書くというめあてをつかみ、学習の見通しをつくる。	①○反対の立場の人を説得させるためにどのような工夫が必要であるかという視点で話し合わせる。
② 自分の考えをまとめる。	② 資料から読み取ったこと、自分の立場、自分の考えをまとめる。 (4) (3) ペアワークで、自分の立場を説明し、相手の人の考えを知る。そして、その対応を考え、メモにまとめる。	②○意見と理由を分けて考えさせる。 ○いろいろな意見があることを知るために、話し合いでは相手の意見を否定せず聞かせる。 ○様々な視点から反対意見を予想させる。 ○反対意見に対する対応策の例を示す。 意見を見直し、修正させる。

③ 構成を考える。	③ 設問一、設問二で書いたメモをもとに、教科書P233の構成の成メモを作る。	③○自分の意見や理由、予想される相手意見など、書く順序を工夫させる。 ○反対意見の理由の中に相手の意見などを入れる。
④ 意見文を書く。	④ 構成メモをもとに、意見文を書く。	④○自分の意見や理由、予想される相手意見など、書く順序を工夫させる。 ○反対意見の理由の中に相手の意見などを入れる。
⑤ 互いの意見文を読み合って、感想を伝え合い、振り返りをする。	⑤ 書いた意見文を友達と読み合い、よかったところを伝え合う。 (1) 評価の観点に気をつけて読み合い、よかったところを伝え合う。 (2) 説得力を持たせるために、どんなことに気をつけて文章を書いたか。	⑤○自分の意見や理由、予想される相手意見など、書く順序を工夫させる。 ○反対意見の理由の中に相手の意見などを入れる。